

東紀州の自然体験満喫

赤羽中
修学旅行

キャンブイン 海山宿泊

紀北町内12小中学校のトップを切って、赤羽中学校（東光岡校長、10人）の3年生4人が17日から1泊2日、東紀州地域の修学旅行を染しんだ。初日は便ノ山の町営森林オートキャンプ場「キャンブイン海山」に向う。鑓子川でカヌーやたき火体験など地元

の自然観光を満喫した。当初は6月初旬に四日市市で環境学習旅行を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴うまん延防止等重点措置の発出で

断念。保護者アンケートや生徒の意向を踏まえて、1泊2日で東紀州地域を巡る自然体験観光旅行に切り替え、宿泊先は生徒たちが町内のキャンブイン海山を選んだ。

2日間の行程は17日がキャンブイン海山で自然体験を楽しむ、18日は熊野市花の窟（いわい）神社・七里御浜海岸・紀和町鉱山資料館・御峡トロッコ鉱山列車・鬼ヶ城を見学する。

初日はスクールバス1台で午前10時すぎに

キャンブイン海山に到着。施設を運営するNPO法人ふるさと企画舎の田上室理事長から「ここは紀北町の人気スポット。本来はもつとにぎやかな場所だったが、青春の良い思い出をつくりたかったと思

うが、地域観光の魅力や鑓子川の素晴らしさを見つめ直す有意義な時間を過ごしてもらえれば」と歓迎した。生徒たちは田上理事長と記念撮影を楽しんだ後、宿泊場所のコンテ

「コロナで当初予定していた場所に行けないのは残念だが、仲間と地域資源に触れながら最高の思い出となる修学旅行にしてみたい」と話していた。

「紀北地区小中学校の修学旅行は尾鷲市6校、紀北町1校の計17校が実施。向井小と赤羽小は5、6年が複式で昨年度実施したため行わない。

各校とも新型コロナウイルスの影響で6月以降に変更。児童、生徒の感染防止を踏まえて、行き先は赤羽中を除く14校が伊勢志摩・高羽で1泊2日の県内旅行とし、2学期以降に延期した尾鷲中と矢口小は未定でコロナの状況を保護者の意見も参考に決めるという。

尾鷲小と矢口小は6月3、4日に終えており、7月2、3日の日程で実施する輪内中と紀北中、潮南中を除く10校は今月中に実施する。

「コロナで当初予定していた場所に行けないのは残念だが、仲間と地域資源に触れながら最高の思い出となる修学旅行にしてみたい」と話していた。

午後から企画した「鑓子川水系の学習会」では、田上理事長から地下を流れる伏流水や極上の透明度を誇る鑓子川の特徴について説明を受け、カヌーで2人1組になって鑓子川上流約1kmの水面を漂く体験した。

この日は昔ながらの火おこしやまき割りも体験し、夕食は自分たちでおこした火で湯を沸かしてトルトカレーに舌鼓。夜はレクリエーションや自由時間で盛り上がり、コテージ3部屋に宿泊した。初めに修学旅行生を迎えた田上理事長は「地元生徒が来てくれてうれし限り。キャンブイン海山で良い思い出を過ごし、少子高齢化が進む紀北町の将来や観光業の可能性についても考えてほしい」と話した。東校長は「コロナで当初予定していた場所に行けないのは残念だが、仲間と地域資源に触れながら最高の思い出となる修学旅行にしてみたい」と話していた。



カナディアンカヌーを体験する赤羽中3年生の生徒たち（17日、紀北町便ノ山のキャンブイン海山で）